

10月の県内景況は、「売上高」「収益状況」など 5項目が改善したが、「業界の景況」はほぼ 横ばいであった。

情報連絡員による平成27年10月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は18.3%（前月比+2.5）となっており、「横這い」は41.7%（同+1.4）、「低調」とするところが40.0%（同-3.9）、業界全体の「景況感DI」は-21.7（同+6.4）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「売上高」「在庫数量」「取引条件」「収益状況」「設備操業度」の項目が前月と比較して改善しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、繊維製品製造業、サービス業及び建設業は「快晴」または「晴れ」、食料品製造業、木材木製品製造業、鉄工機械製造業、その他製造業、卸売業は「曇り」、その他の業種はすべて「大雨」または「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が11.7%（前月比-5.9）と減少しております（好転の回答0件、やや好転の回答7件）（製造業2、非製造業5）。また、変わらないが、75.0%（前月比+3.0）と増加しております。やや悪化、悪化の見込みは、13.3%（前月比-4.1）と減少しております。

平成27年10月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率100%）

| 項目別DI 業種区分 | 売上高 | | 販売価格 | | 収益状況 | | 資金繰り | | 雇用人員 | | 業界の景況 | |
|---------------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 前月比 | 前年比 | 前月比 | 前年比 | 前月比 | 前年比 | 前月比 | 前年比 | 前月比 | 前年比 | 前月比 | 前年比 |
| 食料品製造 | -14.29 | -28.57 | 0.00 | 42.86 | 0.00 | -14.29 | -28.57 | -14.29 | -14.29 | 0.00 | -14.29 | -14.29 |
| 繊維製品製造 | 66.67 | 66.67 | 0.00 | 33.33 | 33.33 | 66.67 | 33.33 | 33.33 | -33.33 | -33.33 | 0.00 | 33.33 |
| 木材木製品製造 | 0.00 | -25.00 | 0.00 | 0.00 | -25.00 | -50.00 | -25.00 | -25.00 | 0.00 | -25.00 | -25.00 | -25.00 |
| 鉄工機械製造 | 20.00 | 40.00 | 0.00 | 20.00 | -20.00 | 0.00 | -20.00 | -20.00 | -20.00 | -40.00 | 0.00 | -20.00 |
| その他の製造 | 71.43 | -14.29 | 14.29 | 28.57 | 0.00 | -14.29 | 0.00 | -14.29 | -14.29 | 0.00 | -14.29 | -28.57 |
| 卸売業 | 25.00 | 0.00 | 0.00 | 25.00 | -25.00 | -50.00 | -25.00 | -25.00 | 0.00 | -25.00 | 0.00 | -25.00 |
| 小売業 | -11.11 | -11.11 | 0.00 | -22.22 | -33.33 | -22.22 | -11.11 | -11.11 | -11.11 | -22.22 | -33.33 | -33.33 |
| 商店街 | 0.00 | -50.00 | 0.00 | 0.00 | -33.33 | -50.00 | -33.33 | -33.33 | -16.67 | -16.67 | -16.67 | -33.33 |
| サービス業 | 42.86 | 71.43 | 14.29 | 14.29 | 0.00 | 28.57 | -14.29 | 14.29 | 0.00 | 14.29 | 28.57 | 28.57 |
| 建設業 | -20.00 | 0.00 | 0.00 | 20.00 | 0.00 | 20.00 | 0.00 | 20.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 20.00 |
| 運輸業 | 0.00 | -33.33 | 0.00 | 33.33 | -33.33 | -33.33 | 0.00 | -33.33 | 0.00 | -33.33 | 0.00 | -66.67 |

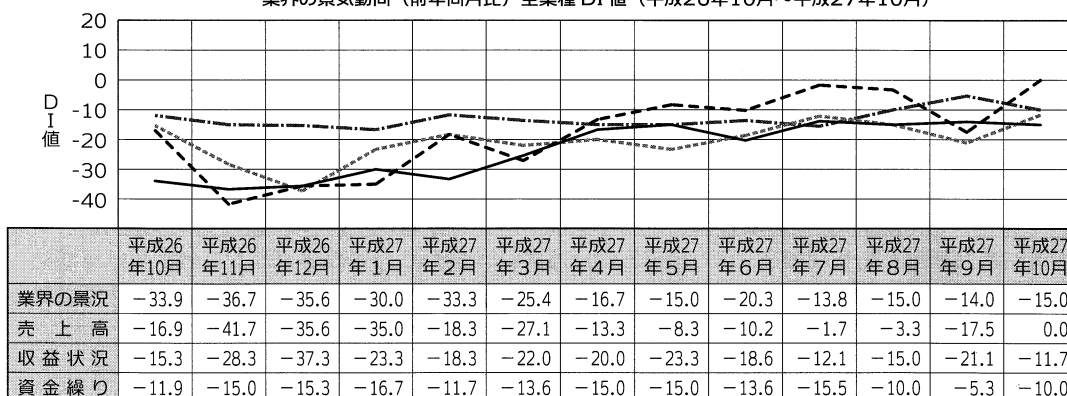
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値(D・I値)をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10~30未満
- うすぐもり -10~10未満
- 曇り -30~-10未満
- 雨 -50~-30未満
- 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種DI値（平成26年10月～平成27年10月）



食料品製造業**<漬物>**

3年連続の天候異変、農家の高齢化等により、生野菜などの国内原料価格が毎年高騰し、利益が圧迫されている。輸入原料も高騰が続き、量目変更等で価格調整をしているが、利益が出る価格まで値上げできていないのが現状である。

<味噌醤油>

相変わらず醤油の出荷量は売上とともに、昨年度より減少している。利益も伸び悩み昨年とほぼ横這いの状況。風評被害は根強く残っていると思われる。主原料は、円安による影響が続いており、依然として厳しい。

<菓子>

秋の行事需要もほぼ終わり、果物の最盛期と相まって閑散期に入っている。この時期は小豆やもち米の品質、価格が気になる時期。組合では3種類の共同購入品を追加し製品の改良、新製品の販売等の役に立てればと思っている。

<酒造>

日本酒のシーズン突入とともに、伸びを見せている。これから27年度の仕込みが始まるが、原料米の質が落ちている。(夏場の高温障害と秋口の低温が影響)また、今の時期は酒の在庫が少ない時で、商品によっては欠品しているものもある。

<食品団地>

消費動向に大きな変化はないが、季節物、旬の物が前年に比べ価格が上がっており、地方の売上が伸びていない。原油価格は若干下がっているが、原料等の価格高騰は続いているため、各組合員企業の収益は厳しい状況が続いている。

縫製品・同製品製造業**<ニット>**

秋冬物の生産が一段落し、一息であるが今後の受注状況がわからず、心配である。

木材・木製品製造業**<製材業>**

丸太の伐採シーズンで出材が増え、一方製材工場では丸太の手当てをすすめていることから、原木価格は上昇基調にある。しかし製材品市況は依然低調に推移しており、製材工場では今後原木の手当てを継続する気配は少なく、価格のさらなる値上がりは難しいとの見方が多い。

<外材輸入>

前月に引き続き製材品の荷動きはそこそこではあるが、製品価格を押し上げるまでの力強さはなく、依然として低迷した状況下にある。

紙・紙加工品製造業**<紙器・段ボール>**

物が動かないと包装材は使用されないため、経済状況に大きく左右される。新製品が開発されても包装材仕様は最終検討になるため、納期が間近に迫ってから検討され、商品価格が決定してから包装材(箱)の値段が決めるるので、コスト協力要請が非常に厳しい。

印刷業**<印刷>**

例年は繁忙期の時期であるが、勢いが感じられない。

業況が低迷しているため、各社とも収益状況は厳しい傾向にある。

窯業・土石製品製造業**<陶磁器>**

10月は昨年と比べ、団体客の入込数が多かった。

<砕石>

(県北地区)

1. 当月売上高の前月比 約11%の増
2. 当月売上高の昨年同月比 約17%の増
3. 今年度累計の昨年対比 約17%の増
4. 原因・状況 引き続き除染工事関連と生コン工場への納入が多かった。

<生コン>

平成27年10月の組合員生コン出荷数量は、214,312m³と対前年同月比19.3%の増。増加地区は東日本大震災等で被害を受けた道路、建物、港湾等復旧・復興工事が主たる要因。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比10.7%の増、官公需が36.2%の増であった。

■民需の動向

対前年同月比 10.7%の増

①対前年同月比増加地区

<県北地区> 45.3%の増

自動車整備工場、特老ホーム、太陽光発電所新築工事等

<県中地区> 9.0%の増

病院、マンション新築工事、工場増築工事等

<白河地区> 12.5%の増

太陽光発電所、配送センター、工場、倉庫・事務所建設工事等

<いわき地区> 19.3%の増

新工場建設、製品倉庫建設、マンション新築工事等

<会津地区> 8.4%の増

会津オリンパス再開発棟建設工事、JA低温倉庫新築工事等

②対前年同月比減少地区

<相双地区> 11.6%の減

変電所工事、石炭火力発電所、原発保安対策工事等

■官公需の動向

対前年同月比 36.2%の増

①対前年同月比増加地区

<県中地区> 5.3%の増

環境創造センター、工業団地、医療機器安全評価センター工事等

<いわき地区> 22.7%の増

港湾災害復旧、災害公営住宅、小名浜東港関連工事等

<相双地区> 92.1%の増

トンネル、減容化施設工事、LNG基地工事、海岸復旧工事等

<会津地区> 41.8%の増

浄水場工事、学校大規模改造工事、河川改良・治山工事等

②対前年同月比減少地区

<県北地区> 1.8%の減

霊山、馬籠山、庄司淵、腰巡トンネル、医療科学センター工事等

<白河地区> 30.1%の減

市民文化会館、役場、小学校建設工事等

鉄鋼・金属・一般機械製造業**<鉄工>**

(県中地区)

県内の鉄骨関係の仕事は落ち着いたが、関東地区の仕事も多く入っている。

<各種プラント機器>

当組合のプラント設備関連業界は、売上高では前月比5%の減となるも、前年同月比では152%増と活発であった。累計では前年とほぼ同額と回復してきたが依然として案件が少ない状況が続いている。今後の半期が気にかかる状況である。

卸売業

<卸売業>

(県中地区)

10月期は、特に目立った動きは感じられなかった。建築関連については、全体として堅調に推移しているが、今も資材の高騰が続いており先行きに対する不透明感が増してきている。特に、オリンピックを前に、さらに価格高騰が続くのではないかとの見方も多く、警戒感を強めている。医薬品業界においては、ジェネリック薬品の開発競争や価格競争の影響を受け、販社側も対応に追われている。卸団地においては、郡山プレミアム商品券の参加店が複数社見られたが、売上に貢献したとの報告は今のところない。

<再生資源>

鉄スクラップ・非鉄金属の価格は下がり続けており、売上高の減少が続いている。古紙価格は維持しているが、発生減、回収量の減少は続いている。11月から年末に向けて発生増を期待している。

小売業

<共同店舗>

(県中地区のOショッピングセンター)

売上・客数は前年比でやや好転、前月比では横ばい。10月度は物販で前年比、前月比を伸ばしたが、飲食が低迷。9月のシルバーウィークの売上が伸びていたため、飲食の前月比が2ケタマイナスになった。

(県中地区のNショッピングセンター)

米価の動向が気になる。

<石油>

10月、元売仕切はほぼ横ばいか若干の値下がりとなった。このため、市場小売価格も下落傾向ながら、ほぼ前月並みとなっている。

<食肉>

牛肉が高値のまま、販売価格の上昇を抑えながら、収益は悪化しても供給を維持している。

<青果>

前月からの単価の高騰は一部を除いては例年並に落ち着いてきた。昨年に引続き、県内産の山菜・きのこの取扱が放射能災害によりできず、特に松茸の取扱は金額がはるだけに減少となった。会津身不知柿の取扱も始まったが、高値で取引されず伸び悩む。原発事故以来、贈答用の使用も回復することは困難な状況である。来月も売上、取扱増加はあまり期待できない。

<電機>

全体的に売上が悪い。これといった商材が不足している。暖房にエアコンを勧めることが大切。合展、個展に期待。

商店街

<福島市>

“中心市街地「駅前活性化プロジェクト アキフェス」”の開催により、毎週末には何らかのイベントが街なか各地にて行われており、イベント単体では賑わ

いを出すのに成功している。ただし、それが経済効果に繋がっているかは、いつもながら残念な状況。前年と比較すると確実に状況は悪化しているが、震災後が色々な意味で異常であり、現在は震災前に戻ったといえる。これからが正念場。

<郡山市>

10月はプレミアム商品券の利用が始まり、商店街内でも利用は好調のようだが、売上の増加にはなかなか結びつかないようだ。今までの現金でのお客様が、商品券での利用に変わっただけで、新規顧客・新規商品には広がっていかないような感じ。プレミアムがついても財布のひもは固いようで、単価のアップにもなかなかならないようだ。もうしばらくは我慢の時期が続くような気がする。

<南相馬市>

10月5日より収穫祭を実施した。17日はナイトバザーで新米プレゼントの抽選会を行った。市内全体としては低調。

<会津若松市>

10月に入り気温が低くなり、客足が鈍くなった印象。鶴ヶ城マラソン、会津十楽、Book! Book! AIZU等、多くのイベントが行われ、たくさんの家族連れが訪れていた。最近盛り上がりを見せているハロウィンイベントも市内各地で行われているようであった。こういったイベント時に集客出来るよう工夫が必要だ。

<いわき市>

前半は天候も不安定で台風の影響もあり、来街客数も少なく感じたが、秋物の本格的な動きと行楽需要等で、購買に結びついていったようである。後半からは穏やかな秋晴れが多く、恒例の「街なかコンサート」もかなりの人出でにぎわい、飲食店を中心に好結果であった。ただ気温が高めで秋冬への移行が鈍った感じがあり、業種によりまだら模様の10月であった。

サービス業

<旅館業>

(土湯温泉)

好天が続き、紅葉狩りの観光客が増加したので、震災前のような観光客入込となった。また、再生可能エネルギー事業への視察や地熱体験ツアーへの参加者が増えており、新たな産業観光、教育旅行として注目を集めた。

<理容業>

10月は天候にも恵まれ、全体的にはまずまずのようだった。暑い時季と比べ、涼になると調髪周期が伸びるので髪を切らなくとも来店していただけるようなクリニック系や癒しのメニューを組合上げて講習会を開催し、がんばるようすすめている。

<廃棄物収集運搬業>

通常業務については大きな変化はない。震災関連事業が10月からスタートした。おおむね3年間の事業。産業廃棄物に関しては依然として排出量は震災前の水準には届かず、当該事業として苦戦している状況。

建設業

<建設業>

(県一円)

福島県発注工事の平成27年度上期(4月~9月分)の入札結果集計表によると912.5億円対前年比では△84.3億円の減額となっている。

(県南地区)

除染業務が白河市で新たに発注され、翌年まで売上

が確保できる見込みである。建築工事が多く発注されているが、土木工事は少ない。メガソーラー発電所の設置工事が継続している。

<管工事>

前月比で、給水設備申請が減少し、排水設備申請が増加した。前年累計対比では、給水設備申請が増加し、排水設備申請は減少した。

<専門工事>

杭打ち工事での偽装問題が発覚した。耐震偽装問題と同等、もしくはそれ以上の大問題に発展するのかもしれない。建設業界としての元下請としての関係だけではなく、法規やモラルと言った所にまで再び波及することが考えられ、その対応に業界全体が減速して、日本経済全体に悪影響を及ぼすことが懸念される。法規を順守することは重要だが、必要最低限の線引きと、

評価されるべき努力との線引きを考慮しないと、正直者が馬鹿を見る状況は改善されないのではないだろうか？ なお、福島県でも業界の若手労働者や技術者の確保・育成に着手を始めた。どんな小さな一歩であっても変わることに進んでいる状況には期待したいと思う。

運輸業

<トラック運送>

(県北地区)

10月の燃料価格も安定していたため、収益も確保できている。当組合員の業況も今のところ安定しており、特に変化なく推移している。

<ハイヤータクシー>

動きが悪い状況が続き、厳しさが増している。

県政トピックス

2015. 12

アサヒグループ商業コミュニティ助成事業募集のお知らせ

アサヒグループホールディングス株式会社と福島県では、東日本大震災により商業機能が喪失した地域や震災後の住民避難等により高齢化が加速している地域において、日常の買い物を通して地域住民のコミュニティを構築する事業に対し、震災後の地域コミュニティの維持・再生と復興まちづくりを推進することを目的とした助成を行っています。

現在、平成28年度事業の募集を行っておりますので、是非御応募ください。

◎ 事業実施者

《主 催》 アサヒグループホールディングス株式会社 《共 催》 福島県

◎ 助成対象事業・事業区分

【I 事業】 地域住民の買い物支援を通じてコミュニティを維持、再生する事業

※ 移動販売、送迎サービス、買物代行などの買物支援のための事業（助成額上限300万円）

【II 事業】 地域コミュニティの維持、再生、活性化のために商店街等において行う事業

※ 避難者との交流イベントの開催などのソフト事業（助成額上限50万円）

○ 平成27年度事業では、申請のあった29件について外部有識者を含む審査を行い、合計14件（【I 事業】7件、【II 事業】7件）を採択しました。

◎ 助成対象団体 商工団体、民間企業、特定非営利活動法人など

◎ 助成対象期間 平成28年4月1日から平成29年3月31日までに実施する事業

◎ 募 集 期 間 平成27年11月24日(火)から平成27年12月24日(木)まで

助成事業の詳細につきましては、福島県商業まちづくり課のホームページを御覧いただくか、下記のお問い合わせ先まで御連絡ください。

<お問い合わせ先>

福島県庁 商工労働部 商業まちづくり課

電話：024-521-7299 FAX：024-521-8886

福島県 アサヒ助成

検索